

報告

## 沖縄県 H 島における高齢者の ソーシャルネットワーク・生活満足度・介護意識に関する研究

### — 介入前後の高齢者の意識比較 —

呉地 祥友里<sup>1)</sup> 大湾 明美<sup>1)</sup> 宮城 重二<sup>2)</sup> 佐久川 政吉<sup>1)</sup> 上原 綾子<sup>1)</sup>

#### 【目的】

平成12年から5カ年間の計画で、沖縄県 H 島の地域ケアシステム構築のために参加型アクションリサーチで介入した。介入の結果評価の一指標として、高齢者のソーシャルネットワーク・生活満足度・介護意識について介入前後の比較を横断的に行い、高齢者の意識を明らかにする。

#### 【対象及び方法】

対象は日本最南端 H 島の全高齢者（65歳以上）である。平成12年調査（介入前）217人、平成17年調査（介入後）204人。有効回答者は介入前171人（78.8%）、介入後140人（68.6%）であった。

調査方法は、質問紙による訪問面接調査を実施した。高齢者の意識として、生活満足度、ソーシャルネットワーク、介護意識に関する項目について介入前後で性別、年齢別に比較した。

#### 【結果及び考察】

1. 世帯構成は、性別では介入前後で男性は「夫婦世帯」、女性は「単身世帯」が高く、年齢別では、介入前後で後期高齢者は、「夫婦世帯」が減少し、「単身世帯」が増加していた。
2. ソーシャルネットワーク項目（知人の範囲、用件依頼の授受、隣人への支援意識）では、介入前後の性別・年齢別に有意差はなかった。しかし、介入後の特徴として平均年齢が介入前より高齢化し、その影響を受けていることが示唆された。
3. 生活満足度と介護意識は、介入前後の性別・年齢別に有意差はなく、H島の地域ケアの誕生は生活満足度と介護意識には影響しなかったと推察された。
4. 介入前からのソーシャルネットワークの高さ、生活満足度の高さ、介護の場は在宅で人生最期の居住意識はH島という高齢者の特徴は、介入後も変わらず維持されていた。

キーワード：離島 高齢者 ソーシャルネットワーク 生活満足度 介護意識

### I はじめに

2000年、介護保険制度の施行以来、高齢者ケアは施設から在宅や地域へ移行し、「2015年の高齢者介護」では、介護予防も含めた高齢者の尊厳を支えるケアのために、地域包括ケアシステムの確立に向け基盤整備が行なわれている<sup>1)</sup>。しかし、沖縄県の有人離島は高齢化率が高く、特に後期高齢者の割合が高いが、高齢者ケアの基盤整備が弱く課題が山積している。我々は、地域ケアシステム構築の方向性として、従来の「不利性克服型」から「有利性伸展型」への変換を志向し、離島の有利性としての「互助」に着目した<sup>2)</sup>。

平成12年から5カ年間の計画で、特に互助機能の期待できる H 島をモデル島としてアクションリサーチで介入し展開してきた。その開始は、介入直前に全高齢者を対象に「高齢者在宅福祉サービス調査」を行い、実態を明らかにした<sup>3)</sup>。多くの高齢者はソーシャルネットワークが高く、日常生活に満足し、島で介護を受け、人生の

最期を島で過ごすことを希望していた。

そこで我々は島の高齢者の互助機能を活かす介入により、ソーシャルネットワークや日常生活の満足度が一層高まり、介護意識にも変化を与えようと考えた。そこで、今回は、平成12年介入前に実施した調査内容と同様の調査を平成17年に行い、介入前後の結果を横断的に比較し、介入により構築された地域ケアシステムの結果評価の一指標とすることを目的とした。

### II 研究方法

#### 1. 対象

日本最南端 H 島の平成12年調査時（以下、「介入前」）の人口は564人、高齢化率38.5%（平成11年12月末現在の住民基本台帳）、平成17年調査時（以下、「介入後」）の人口は600人、高齢化率34.0%であった（平成17年3月25日現在の住民基本台帳）。対象は全高齢者とし、介入前217人、介入後204人で、有効回答者は介入前171人（78.8%）、介入後140人（68.6%）であった。介入前の平均年齢±標準偏差は74.0±6.33歳、介入後は75.9±6.47歳であった。

1) 沖縄県立看護大学

2) 女子栄養大学

表1 対象者の一般特性

	平成12年(介入前)						平成17年(介入後)									
	計	性別		年齢		計	性別		年齢							
		男性	女性	前期高齢者 (55~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)		男性	女性	前期高齢者 (55~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)						
同居世帯	76	43.7%	22	40.7%	54	45.0%	41	40.6%	20	46.5%	51	52.6%	32	53.3%	39	48.8%
世帯構成	57	32.8%	25	46.3%	32	26.7%	40	39.8%	19	44.2%	21	21.6%	19	31.7%	21	26.3%
夫婦世帯	26	14.9%	2	3.7%	24	20.0%	10	9.9%	16	21.9%	22	15.7%	3	7.0%	19	18.8%
単身世帯	15	8.6%	5	9.3%	10	8.3%	10	9.9%	5	6.6%	7	5.0%	1	2.3%	6	6.2%
その他	174	100.0%	54	100.0%	120	100.0%	101	100.0%	73	100.0%	140	100.0%	43	100.0%	97	100.0%
職業の有無	81	46.6%	31	57.4%	50	41.7%	66	65.3%	15	20.5%	74	53.2%	33	76.7%	41	42.7%
あり	70	86.4%	29	93.5%	41	82.0%	59	89.4%	11	73.3%	70	94.6%	33	100.0%	37	90.2%
職業の有無	93	53.4%	23	42.6%	70	58.3%	35	34.7%	58	79.5%	65	46.8%	10	23.3%	55	57.3%
なし	174	100.0%	54	100.0%	120	100.0%	101	100.0%	73	100.0%	139	100.0%	43	100.0%	96	100.0%
計																

1)は「職業あり」に対する割合である。

\*\*p<0.05 \*\*\*p<0.01 \*\*\*\*p<0.001

表2 ソーシャルネットワーク

	平成12年(介入前)						平成17年(介入後)									
	計	性別		年齢		計	性別		年齢							
		男性	女性	前期高齢者 (55~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)		男性	女性	前期高齢者 (55~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)						
知人の範囲	158	90.8%	50	92.6%	108	90.0%	92	91.1%	66	90.4%	126	90.6%	40	93.0%	86	89.6%
ほとんど知っている	16	9.2%	4	7.4%	12	10.0%	9	8.9%	7	9.6%	13	9.4%	3	7.0%	10	10.4%
その他	174	100.0%	54	100.0%	120	100.0%	101	100.0%	73	100.0%	139	100.0%	43	100.0%	96	100.0%
用件の依頼	133	76.4%	42	77.8%	91	75.8%	77	76.2%	56	76.7%	95	67.9%	30	69.8%	65	67.0%
(授) 授けたい	41	23.6%	12	22.2%	29	24.2%	24	23.8%	17	23.3%	45	32.1%	13	30.2%	32	33.0%
(受) 受けたい	174	100.0%	54	100.0%	120	100.0%	101	100.0%	73	100.0%	140	100.0%	43	100.0%	97	100.0%
用件の依頼	128	73.6%	39	72.2%	89	74.2%	79	78.2%	49	67.1%	92	65.7%	30	69.8%	62	63.9%
(授) 授けたい	46	26.4%	15	27.8%	31	25.8%	22	21.8%	24	32.9%	48	34.3%	13	30.2%	35	36.1%
(受) 受けたい	174	100.0%	54	100.0%	120	100.0%	101	100.0%	73	100.0%	140	100.0%	43	100.0%	97	100.0%
隣人への支	90	51.7%	22	40.7%	68	56.7%	52	51.5%	38	52.1%	88	63.8%	22	52.4%	66	68.8%
訪ねる	64	48.3%	32	59.3%	52	43.3%	49	48.5%	35	47.9%	50	36.2%	20	47.6%	30	31.3%
接点(支)	174	100.0%	54	100.0%	120	100.0%	101	100.0%	73	100.0%	138	100.0%	42	100.0%	96	100.0%
その他																

1)設問: あなたはH島の人のどのくらい知っていますか。あてはまるものにつだけ○をつけて下さい。  
「その他」は自分の集落と隣の集落まで知っている、自分の集落だけ、隣近所だけ、あまり知らないをまとめた。  
2)設問: 家族以外の方に買物や用事を頼みますか。  
3)設問: 家族以外の方から買物や用事を頼まれたらいいにいきますか。  
4)設問: 近所の方の家が2~3日見えない時、あなたはどしますか。あてはまるものにつだけ○をつけて下さい。  
「その他」は、親戚知人に聞く、知にみるがそのまますみずをみる、わからないをまとめた。

## 2. 方法

調査方法は、以下の項目から構成される質問紙を作成し、訪問面接調査を実施した。調査期間は、介入前は平成12年2月26日~28日、介入後は平成17年3月25日~27日のそれぞれ3日間であった。調査員はボランティアを島内外から募集し、介入前は調査の手引きを作成しオリエンテーションを行った23人、介入後は、介入前のメンバーを原則に24人であった。介入前の調査項目は、「島の生活」、「人的ネットワーク」、「介護保険」、「介護予防」、「介護意識」で設問は26項目、介入後は、24項目とした。本研究では、これらの項目から高齢者の意識として、生活満足度、ソーシャルネットワーク、介護意識に関する項目について介入前後で比較した。比較は、性別(「男性」と「女性」)、年齢別(「前期高齢者」と「後期高齢者」)で介入前、介入後それぞれに $\chi^2$ 検定を行った。

## 3. 倫理的配慮

報告者らは住民主体の地域ケアシステム構築を支援する立場としてH島住民と情報を共有し、調査の結果等の情報公開の許可を得ている。しかし調査に対しては拒否が可能なこと、不利益を受けることのないことを調査時直接説明し、承諾を得た。

## III 結果

### 1. 対象者の一般特性

性別は、介入前は男性54人(31.0%)、女性120人(69.0%)、介入後は男性43人(30.7%)、女性97人(69.3%)であった。年齢は、介入前は前期高齢者101人(58.0%)、後期高齢者73人(42.0%)、介入後は前期高齢者60人(42.9%)、後期高齢者80人(57.1%)であった。

世帯構成は、全体では「同居世帯」が介入前76人(43.

7%)、介入後71人(50.7%)であった。性別では有意差があり、男性は「夫婦世帯」、女性は「単身世帯」が高くなっていった(表1)。年齢別では、介入前で有意差があり、前期高齢者は「夫婦世帯」、後期高齢者は「単身世帯」高くなっていった。

職業の有無では、全体で介入前後に職業「あり」は約5割でそのほとんどが農業に従事していた。性別では、特に介入後の男性の職業「あり」33人(76.7%)の割合が高く、年齢別では前期高齢者に職業「あり」43人(71.7%)が高くなっていった。

### 2. ソーシャルネットワーク

ソーシャルネットワークの項目は社会関係の構造的・機能的側面に着目し、関係の広がり(構造的側面)として「知人の範囲」、機能的側面として手段的サポートのうち「用件依頼の授受」、情緒的サポートの「隣人への支援意識」を取り上げた(表2)。

知人の範囲は、「ほとんど知っている」が介入前158人(90.8%)、介入後126人(90.6%)であり、介入前後とも、性別、年齢別の有意差はなかった。

家族以外の方への用件依頼の授受は、介入前も介入後も性別、年齢別に有意差はなく、約7割が依頼の授受に依っていた。介入後は、用件を依頼する(授)は後期高齢者57人(71.3%)が、前期高齢者38人(63.3%)と比較して約1割高く、用件の依頼をうける(受)は後期高齢者49人(61.3%)が、前期高齢者43人(71.7%)と比較し約1割低くなっていった。

隣人への支援意識では、近所の方の姿が2~3日見えないとき、「訪ねる」が全体で介入前90人(51.7%)、介入後88人(63.8%)であった。性別、年齢別では、有意差はみられなかった。

表3 生活満足度

	平成12年(介入前)						平成17年(介入後)													
	計	性別		年齢		計	性別		年齢											
		男性	女性	前期高齢者 (65~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)		男性	女性	前期高齢者 (65~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)										
満足群	132	75.9 %	39	72.2 %	93	77.5 %	78	77.2 %	54	74.0 %	105	75.0 %	33	76.7 %	72	74.2 %	44	73.3 %	61	76.3 %
生活満足度 普通群	27	15.5 %	9	16.7 %	18	15.0 %	14	13.9 %	13	17.8 %	24	17.1 %	6	14.0 %	18	18.6 %	9	15.0 %	15	18.8 %
不満群	15	8.6 %	6	11.1 %	9	7.5 %	9	8.9 %	8	8.2 %	11	7.9 %	4	9.3 %	7	7.2 %	7	11.7 %	4	5.0 %
計	174	100.0 %	54	100.0 %	120	100.0 %	101	100.0 %	73	100.0 %	140	100.0 %	43	100.0 %	97	100.0 %	80	100.0 %	80	100.0 %

説明: 島での生活に満足していますか、あてはまるものにつけ○をつけて下さい。

表4 介護意識

	平成12年(介入前)						平成17年(介入後)													
	計	性別		年齢		計	性別		年齢											
		男性	女性	前期高齢者 (65~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)		男性	女性	前期高齢者 (65~74歳)	後期高齢者 (75歳以上)										
介護を受けたい	127	73.0 %	36	66.7 %	91	75.8 %	73	72.3 %	54	74.0 %	85	62.5 %	24	58.5 %	61	64.2 %	34	58.6 %	51	64.6 %
在宅希望	40	23.0 %	14	25.9 %	26	21.7 %	21	20.8 %	19	26.0 %	32	23.5 %	10	24.4 %	22	23.2 %	14	24.8 %	18	22.8 %
施設希望	7	4.0 %	4	7.4 %	3	2.5 %	7	6.9 %	0	0.0 %	19	14.0 %	7	17.1 %	12	12.6 %	9	15.8 %	10	12.5 %
わからない	174	100.0 %	54	100.0 %	120	100.0 %	101	100.0 %	73	100.0 %	136	100.0 %	41	100.0 %	95	100.0 %	57	100.0 %	79	100.0 %
人生最期の 家で過ごしたい	132	75.9 %	47	87.0 %	85	70.8 %	77	76.2 %	55	75.3 %	112	80.6 %	34	81.0 %	78	80.4 %	47	79.7 %	65	81.3 %
人生最期の 島外施設希望	18	10.3 %	3	5.6 %	15	12.5 %	12	11.9 %	6	8.2 %	8	5.8 %	3	7.1 %	5	5.2 %	3	5.1 %	5	6.3 %
住居意識 わからない	24	13.8 %	4	7.4 %	20	16.7 %	12	11.9 %	12	16.4 %	19	13.7 %	5	11.9 %	14	14.4 %	9	15.3 %	10	12.5 %
計	174	100.0 %	54	100.0 %	120	100.0 %	101	100.0 %	73	100.0 %	139	100.0 %	42	100.0 %	97	100.0 %	59	100.0 %	80	100.0 %

<sup>1)</sup> 施設: 介護が必要になった場合、あなたはどうして欲しいですか。  
<sup>2)</sup> 説明: あなたは人生の最期をどちらで過ごしたいと思えますか。

### 3. 生活満足度

主観的幸福感の一指標である生活満足度は、生活満足度を、満足とやや満足を「満足」、普通を「普通」、やや不満と不満を「不満」としてまとめた(表3)。

全体で、「満足」は介入前132人(75.9%)、介入後105人(75.0%)、「不満」は介入前15人(8.6%)、介入後11人(7.9%)であった。性別、年齢別に差はなかった。

### 4. 介護意識

介護意識の項目として、「介護を受けたい場」と「人生最期の居住意識」について検討した(表4)。

介護を受けたい場は、「在宅希望」は全体で介入前127人(73.0%)、介入後85人(62.5%)であり、「施設希望」は介入前40人(23.0%)、介入後32人(23.5%)、「わからない」は介入前7人(4.0%)、介入後19人(14.0%)であった。性別及び年齢別でほとんど差はなかった。

人生の最期を迎える場所として、「島で過ごしたい」は全体で介入前132人(75.9%)、介入後112人(80.6%)であり、「島外施設希望」は介入前18人(10.8%)、介入後8人(5.8%)であった。介護意識も、性別、年齢別の差はみられなかった。

## IV 考察

### 1. 調査対象者の変化

介入前後の島全体の高齢化率は低下しているが、調査対象者は、平均年齢が介入前と比較し介入後は約2歳高く、介入後の後期高齢者の割合は10ポイント以上増加しており、島内の高齢者の高齢化が進行していた。

世帯構成では、介入前後とも男女間に有意差がみられ、男性では「夫婦世帯」、女性では「単身世帯」が高くなっていった。この結果は、高齢社会白書<sup>4)</sup>による結果と類似していた。

介入後の職業の有無では、就業率には変化はみられずほとんどが農業に従事していたが、男性の職業「あり」の割合が高くなっていった。

### 2. ソーシャルネットワークの変化

高齢者全体では、介入後の知人の範囲は、介入前と同

様に高く、また介入後の要件依頼(受)は後期高齢者が前期高齢者より約1割減少し、隣人への支援意識では介入前より約1割増加していた。「高齢になるにつれてサポートの提供が減少する」<sup>5)6)</sup>との報告や「離島における高齢者の他者との相互サポートの相手は友人・知人や近くの人」<sup>7)</sup>との報告もあり、H島でも高齢化の進行が、隣人への支援意識に影響していると推察された。

しかし、介入前と介入後でソーシャルネットワークの4項目において、介入による影響を予測したが、性別、年齢別に有意差がみられるほどの変化はなかった。これは、志水ら<sup>7)</sup>の報告でも、社会資源が限られている離島では、高齢者の他者との相互サポートは高く、インフォーマルなネットワークはフォーマルな社会資源を代替する重要なものであると述べており、介入前からの島のソーシャルネットワークは高いため、介入の結果に結びつかなかったと考えられた。

### 3. 地域ケア誕生と生活満足度・介護意識の変化

5カ年間の介入により、高齢者の地域ケアは、生きがい型デイサービス、移送サービス、食の自立支援事業、ゴミだしボランティアサービス、ふるさと訪問が誕生した。これらの地域ケアが、精神的な健康の1指標であり生活の質(QOL)の評価である生活満足度や、高齢期の生活不安の上位をしめる介護不安<sup>8)</sup>が介護意識に影響すると予測した。しかし、介入前と介入後及び性別、年齢別に生活満足度や介護意識に有意差はみられなかった。この結果は、H島の地域ケアの誕生は、高齢者の生活満足度や介護意識に影響しなかったことが示唆された。

高齢者の生活満足度は、国民生活に関する世論調査<sup>1)</sup>では、65歳以上の約6割が「満足」と回答しているが、「不満」も約3割あった。H島高齢者の「満足」は約8割、「不満」は1割弱であり介入前から生活満足度の高さが示唆された。また、生活満足度に影響される要因として、主観的健康や趣味・余暇活動や<sup>10)11)</sup>、親戚、友達、近所との交流<sup>12)</sup>等があるが、地域ケアが主観的満足度に影響する文献はみつからず、むしろ福祉サービスの利用により主観的満足度を低めるという報告<sup>13)</sup>があった。高齢者

の生活満足度の高さと地域ケアとの関連については今後検討していく必要があると考えられた。

また、介護意識に変化がみられなかったのは、誕生した地域ケアが介護保険サービスは皆無で介護予防・地域づくりサービスに偏重していたことも影響していると推察される。「介護必要時」には直接ケアの提供が可能になるよう、平成16年には住民組織によるNPO法人が許認可を受けたが、介護保険サービス誕生には至っていない。今後、「島で介護を受け、人生の最期を島で過ごす」という高齢者の希望の実現に向け、NPO法人の活動展開が期待される。

今回は高齢者の意識を介入前後の比較から横断的に捉えようとしたものであり、介入前的高齢者群をベースラインデータとする縦断的比較は今後の課題である。

## V 結論

沖縄県 H 島の地域ケアシステム構築のために、参加型アクションリサーチで介入した評価の一指標として、平成12年介入前に実施した調査内容と同様の調査を平成17年に行った。介入前と介入後の結果を高齢者の性別、年齢別で比較した。

1. 世帯構成は、性別では介入前後で男性は「夫婦世帯」、女性は「単身世帯」が高く、年齢別では、介入前で、後期高齢者は、「夫婦世帯」が減少し、「単身世帯」が増加していた。
2. ソーシャルネットワーク項目（知人の範囲、用件依頼の授受、隣人への支援意識）では、介入前後の性別・年齢別に有意差はなかった。しかし、介入後の特徴として平均年齢が介入前より高齢化し、その影響を受けていることが示唆された。
3. 生活満足度と介護意識は、介入前後の性別・年齢別に有意差はなく、H島の地域ケアの誕生は生活満足度と介護意識には影響しなかったと推察された。
4. 介入前からのソーシャルネットワークの高さ、生活満足度の高さ、介護の場は在宅で人生最期の居留意識はH島という高齢者の特徴は、介入後も変わらず維持されていた。今後、NPO法人を拠点とした高齢者の地域ケアの展開が期待される。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました対象者の皆様、多くの関係者に深く感謝申し上げます。

## 引用参考文献

- 1) 高齢者介護研究会：2015年高齢者介護—高齢者の尊

厳を支えるケアの確立に向けて—、特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター、仙台、13-16、2003。

- 2) 大湾明美、宮城重二、佐久川政吉、大川嶺子：沖縄県有人離島の類型化と高齢者の地域ケアシステム構築の方向性、沖縄県立看護大学紀要、6：40-48、2005。
- 3) 大湾明美、仲間富佐江、宮城重二：沖縄県一離島におけるソーシャルネットワークと生活満足度・介護意識・受療意識に関する研究—波照間島の事例—、女子栄養大学紀要、31：133-141、2000。
- 4) 内閣府：高齢社会白書（平成16年版）、ぎょうせい：14-20、2004。
- 5) 野口裕二：高齢者のソーシャルサポート：その概念と測定、老年社会学、34：37-48、1995。
- 6) 河合千恵子、下仲順子：老年期におけるソーシャル・サポートの授受 別居家族との関係の検討、老年社会学、14：63-72、1992。
- 7) 志水幸、亀山育海：離島高齢者の介護予防に関する研究—離島高齢者の余暇活動および他者との相互サポートを中心に—、北海道医療大学看護福祉学部紀要、10：87-97、2003。
- 8) 厚生省高齢者ケアサービス体制整備検討委員会編：介護支援専門員標準テキスト第1巻 介護保険導入の背景、9-10、1998。
- 9) 内閣府大臣官房政府広報室：国民生活に関する世論調査 現在の生活について、2003。http://www8.cao.go.jp/survey/h15/h15-life/
- 10) 栗盛須雅子、星旦二、長谷川卓志：IADLの自立した在宅高齢者の主観的幸福感と生活満足度の関連要因の検討、Health Sciences、20（3）：265-274、2004。
- 11) 藤井奈穂子、小野 玲、米田稔彦、篠原英記、田中康夫、長尾徹、石川雄一：老人福祉センターの通所している地域高齢者の余暇活動と Quality of Life、神戸大学医学部保健学科紀要、20：53-60、2005。
- 12) 島貫秀樹、崎原盛造、芳賀博、安村誠司、新野直明、鈴木征男、兪今：沖縄農村地域の高齢者における交流頻度と生活満足度および精神的健康との関連—IADLレベルによる比較—、民族衛生、69（6）：195-204、2003。
- 13) 吉村真理、米田純子、山内葉月：高齢者の生活満足度を規定する要因に関する研究（1）デイサービスを利用している在宅高齢者における検討、山口医学、46（5）：301-308、1997。

# A Study of Social Networks, Life Satisfaction, and Home Care Consciousness of the Elders in H. Island in Okinawa Prefecture

—Comparison of Consciousness Before and After Intervention—

Sayuri KURECHI, R.N., P.H.N., M.N.<sup>1)</sup> Akemi OHWAN, R.N., P.H.N., D.H.Sc.<sup>1)</sup>  
Shigeji MIYAGI, D.H.Sc.<sup>2)</sup> Masayoshi SAKUGAWA, R.N., P.H.N., M.N.<sup>1)</sup>  
Ayako UEHARA, R.N., P.H.N., M.H.Sc.

## Abstract

**Purpose:** We made an intervention to H. Island by participatory action research method, from the year of 2000 to 2005. The purpose of this study was to identify the elders' consciousness regarding social networks, life satisfaction and home care to evaluate results (as an index) differences before and after the intervention were compared.

**Subjects and Methods:** H. Island is located at the southern extremity of Japan. Subjects were people living in H. Island aged 65 years old or older. The numbers investigated were 217 people in 2000, before the intervention; 204 people in 2004, after the intervention. The effective answers were 171(78.8%), and 140(68.6%). We visited each person in their home and conducted interviews according to a questionnaire. We selected social networks, life satisfaction and home care and investigated consciousness of elders, comparing them according to sex and age.

## Results and Discussion:

1. Household: In elderly males, "married couple household" was the greatest in number, both before and after the intervention. In elderly females, "single household" was the greatest. Before the intervention, "married couple household" was lower and "single household" was higher in old-old people.
2. Social network questionnaires (range of acquaintances, giving and receiving requests, will to support their neighbors): There were no significant differences with regard to sex and age. But, as a characteristic of the situation after the intervention, the average age was higher than that before. It was suggested that the social networks can be influenced by the aging of the society.
3. Life satisfaction and home care consciousness: There were no significant differences between the before and after periods. It was suggested that the creation of the community care did not influence them.
4. The high levels of social networks, life satisfaction, and the wish of being home in H. Island while receiving care and at the end of life were not changed.

**Key words:** isolated island, elders, Social Network, Life Satisfaction, Home Care Consciousness

---

1) Okinawa Prefectural College of Nursing  
2) Kagawa Nutrition University